

早生種りんご山選果基準会



各地区の青果センターは8月22日、早生種りんごの中心品種「サンつがる」の山選果基準会を開きました。

山形りんごセンターで開いた山選果基準会には生産者約30人が参加。黒石青果センターの職員は「着色を待ちすぎると軟化するの、注意しながら収穫してほしい」と説明し、選果をする際は配布した選果基準表を確認して、病害虫などに気を付けるよう呼び掛けました。



選果基準を確認する生産者

晩生桃の出荷説明会



りんご野菜課は8月15日、晩生桃の出荷説明会を平賀東部りんごセンターで開きました。晩生種の「だて白桃」や、主力品種の「川中島白桃」の収穫適期前に、色や形、熟度、硬さの確認をし、高品質生産への意識統一を図りました。

りんご野菜課の担当職員が出荷規格の着色や熟度、形などを説明し、出荷説明会終了後行った目揃い会では生産者が収穫時の硬さや着色基準をサンプルで確認しました。



出荷規格を確認する生産者

などわのコーン販売開始



直売所あっぷるはうすでは、毎年8月から9月に、とうもろこし「などわのコーン」を販売しています。

などわのコーンは、高原地帯で栽培されたとうもろこしで、「などわ」は津軽弁で「あなたと私」という意味。果皮は白粒と黄粒でぎっしりと覆われて色鮮やかなので味と見た目を楽しむことができます。



店頭に並んだ「などわのコーン」

令和7年産ねぎ出荷説明会



尾上青果センターは8月19日、令和7年産ねぎの出荷説明会を開き、生産者約30人が参加しました。

同センターの職員が露地ねぎとハウス軟白ねぎの品質基準、出荷規格などを説明し、説明会終了後には露地ねぎの皮剥ぎの実践や詰め方などを確認しました。

収穫は10月にピークを迎え、12月中旬まで収穫されます。JAでは県外の市場に約27,000ケース（1袋5kg）の出荷を計画します。



皮剥ぎを行う生産者